10 / 17 Fri

個　人　型　**遠山恒輝**（埴生中学校）

共同研究者　**大井和彦**
（信州大学 教育学部 講師）

一人一人の生徒が、「読みの交流」を通して、一人一人の生徒が感じ、考えたことを自由に伝え合い、学び合う国語の授業

共同研究者の大井先生から「文学的文章を学ぶ魅力は何か」と問われ、私は「本は日常では出会えない世界や瞬間に出会える。その面白さや良さが文学的文章の魅力だと思う」と答えました。これが私の授業の原点です。

一学期の物語文の授業では、生徒が作品を理解し記述する姿は見られましたが、自分の考えを語ることには消極的で、恥ずかしさや難しさからつまずく生徒も多くいました。その経験から、「どうすれば生徒が物語文を通して自分の思いや考えを語れるのか」を考えるようになりました。私が願うのは、登場人物や場面について「私はこう思うけど、みんなはどうかな？」と互いに意見を交わし合い、自分の考えを確かにしたり広げたりする生徒の姿です。

そこで今回は「本の中の中学生と共感できるか？～登場人物と自分の考え方や生き方を重ねながら、お互いに考えを伝え合おう～」を学習問題に設定し、２つの作品を扱います。文学的文章を解釈し、自分の考えを「共感」をキーワードに交流することで、作品を通して自分の経験や生き方を語る授業を目指します。

10月17日の授業では、瀬尾まいこさんの『あと少し、もう少し』を取り上げます。駅伝を通して成長する６人の中学生を描いた物語を題材に、生徒が登場人物と出会い、解釈や考えを伝え合いながら読み深めていきます。先生方もぜひ一緒に作品を読み、本の世界に飛び込んでいただければと思います。

共同研究者 大井先生から

授業において“教科書サイズ”ではない物語を読むことは、読書指導から読解指導へという国語科教育の一つの課題であります。さらには生徒がフィクションを読むという営み、そして、教室で共に同じ作品を読むということの意義とどのように向き合うかを考えていくことへ繋がる提案となるよう、共に考えていきたいと思います。

～日 程～

① 開会式・授業説明　13：00～13：20
② 授業公開　13：35～14：25
③ 授業研究会　14：45～15：25
④ 講演会　15：25～15：45
⑤ 閉会式　15：50～16：00

本文（ブックレット vol.144）.indd　2　2025/09/25　15:56:42